

淺間山麓被害調査

長野測候所追分支所

今回の被害中最も大なるは淺間山の南方西長倉村中追分及借宿を最も大なりとす次いで輕井澤及御代田方面なり被害程度を列擧すれば大體左記の通りなり。

一、輕井澤方面（戸障子の外れたる家約百戸硝子破損約二百枚）最も被害多きは舊輕井澤の部落にして硝子二十三枚破損せる家二軒あり其他所々に硝子等の破損せる家あるも被害皆小なり。

新輕井澤方面は殆んど被害なし。

沓掛にては最被害ありし家は硝子五枚破損せる家にして概して、淺間登山道に沿ひたる家に多く國道（中山道）に沿ひたる家並には殆んどなし。

町役場は硝子破損六枚にして小學校は離山の眞下故空氣振動至つて少きためか講堂の硝子障子一枚外方に落下し八枚の硝子を破損したるのみなり

古宿は被害更になし

一、西長倉村

發地油井は被害なし。

鳥井源にては田圃中に新築せる家の障子三本折れたるのみにて他には更になし。

借宿にて最も被害多かりし家は硝子三枚破損障子九本及板戸九本折れたる家にして其他各戸毎に戸障子の外れたるものあり追分小學校にては硝子九十三枚破損板戸一枚折れた追分支所にては硝子十八枚破損板戸一枚折れ硝子障子の外れたるもの二枚あり。

硝子破損 宿直室一枚、納屋一枚、晴雨計室三枚

地震室十枚、二階三枚、計十八枚

硝子障子落下 地震室一枚、二階北窓一枚
板 戸 勝手入口のもの親骨折れ内側に倒る

追分部落としては油屋の硝子二十枚破損及鴨居落下一個を最大とし其他本陣にて硝子十五枚破損を筆頭に戸障子の折れたるもの硝子の破損せるもの等非常に多く借宿と程度殆んど同じ。(以上里見助手調査)

一、御代田村

當地方も可成の激振を受け村全體として百〇三枚の硝子破損あり内最も被害を蒙りたるは驛期近にして硝子三十枚破損せる家最大にして其他所々に皆相當の損害あり。

小學校は硝子の破損二十三枚壁の落下せる所二ヶ所あり。當村としては驛より南進するに従ひ被害程度漸少し借宿及追分地方に比し被害は遙かに少き模様なり。

一、小沼村

各部落共今回の噴火には被害割合に少し當村は噴火に對し劔ヶ峰の背面に當りし故空氣振動の影響少なきためと推測す。

清満地方は被害割合に少く殊に農家多き爲めか硝子障子等なきため戸障子の外れたる位の程度なり。馬瀬口硝子十八破損せる家最大にして其他所々に小破せる家あり硝子の破損せるもの計約三十枚位と役場吏員の話あり。

鹽野は當村としては最大の部落にして従て被害數も最も大なり、當村役場には調査材料更になかりしが計約五十枚位の硝子破損ありと云ふ又部落民の話によれば被害は皆小なるも戸の折れたる家はなく只戸の外れたるもの及硝子の一寸の破損程度のものなりと、而して之等の程度のもの所々にありたり。乘瀬、當地方は殆んど被害なく戸障子の折れたるもの數枚及硝子の破損二、三枚其他は戸障子の外れたる程度なり、小學校にては硝子破損八枚のみ。

一、南大井村

當地は小沼に比し被害小なり。

八幡、障子の折れたる家一軒其他は所々に戸障子の外れたる家ありたるのみ。

柏木、當地方は非常に少く障子の落下せる家一軒にして小學校等も被害更になし。

一、小諸、南大井村より小諸方面に近づくに従ひ被害は漸次少く小諸町にては被害なしとの話但し硝子一枚破損せる家一軒ありしと語りし者あり。

小諸方面には今回の噴火には被害なきも空氣振動の激烈なりしは人皆之を語る。(以上市川技手調査)